

2019年度 いちいの杜 施設目標

スローガン ”介護老人保健施設の理念にのっとり、

利用者の在宅療養を担う役割を果たす”

- 1 施設内の連携を密にする
- 2 フロアのケアマネージャーを中心にしてケアプランを実践する
- 3 R-4システムを活用して業務の効率化を高める
- 4 人材育成に全職員が協力する

巻頭言

理事長 金光 弘

今年も桜の季節が訪れ、いちいの杜は開所してから16年目の春を迎えた。この時期は新しい年度となるため、何かと気忙しく日々が過ぎている。昨年度より懸案であった業務の効率化を図っていくために、施設内での連携を推し進めてきた。その一環として各フロアにケアマネージャーとフロア専属の作業療法士、看護師が常駐した職員配置が実現した。これにより常時生活リハビリをしながら療養できる老人保健施設ならではのスタイルが確立されてきた。今までは介護、看護、リハビリでそれぞれ作成していたケアプランを共有することで無駄が省け利用者の現状に則した介護が可能になってきたのである。今、いちいの杜の昨年度の実績は年間の入所者はショートステイを含めると374人を受け入れ、年間在宅復帰率は78%と高い数字が続いているが、その情報量は想像がつかず、作成文書も膨大な量になっているのである。R-4という電子カルテの導入により作成文書の効率化、簡略化が大幅に可能になり、今までは紙に記録していた時間を大幅に短縮でき、保存も容易となってきている。リピーターの利用者やショートステイの利用者にはなくてはならないアイテムなのである。各フロア間の連携やR-4の活用を積極的に推し進め、改めて在宅復帰に向けた超強化型老健としての役割を十分に担っていかねばならない。

連携の縦軸と横軸、空間と時間

施設長 浜田 篤

連携の重要性は至る所で耳にしますが、「連携」とは何？と聞かれた時の、私なりの定義は次のようなものです。多職種の職員それぞれが、空間の広がりや時間の流れの中で、それぞれ縦軸と横軸の繋がりを持つことであると思います。空間は組織構造と置き換えると、横軸は同僚や他部署のヒトとの繋がり、縦軸は上司やまとめ役と、部下やグループメンバーとの繋がりになります。時間の縦軸は、関わっている事柄や対象の過去から現在までの変化を理解して、これからどのように変化していくかを予測することであり、横軸は自分以外の人やどこでどのようなことを(今、同時に)しているのかを理解することです。これらの繋がりを一人一人がより広く、より強く持てると、全体として効率的・効果的な組織活動ができるようになります。

繋がりを強化していくには、考えながら様々な経験をして学びを蓄積する必要があります。これらの学びを経験者から未経験者へ、ベテランから初心者へと受け継いでいく事が、組織全体の歴史を作っていく事になるでしょう。

職員間の連携を！

理事 飯塚 和子

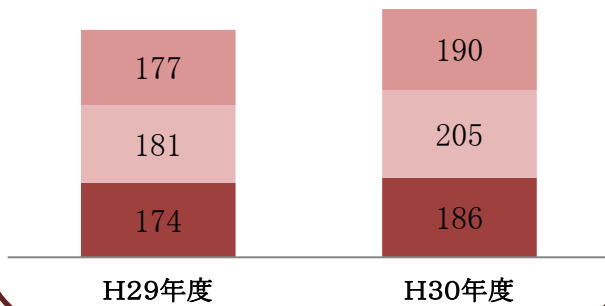
2017年6月介護保険法が改正され、老健施設の定義が「在宅復帰」に加えて、「在宅療養」を担う施設と明確化された。いちいの杜は開設時より在宅復帰を目指しており現在まで一貫している。今、多くの老健は在宅強化型に変換している。老健を取り巻く環境の変化や情報の把握に努め、同じ方向で努力していきたい。

今年度のいちいの杜の施設目標は「連携」がキーワードである。各フロアに担当のケアマネージャー・作業療法士・介護主任・看護主任が配置され、常に連携して利用者のケアプランを管理していくことになった。このメンバーがフロアを中心になって多職種間の垣根を取り払うことにより連携が容易になると思う。このように、具体的な形で各職種の専門性が発揮できるようになれば、なお理想的である。多職種間の連携の在り方は老健の運営を左右すると言える。今年度も職員間のつながりを大切に協働していきたい。

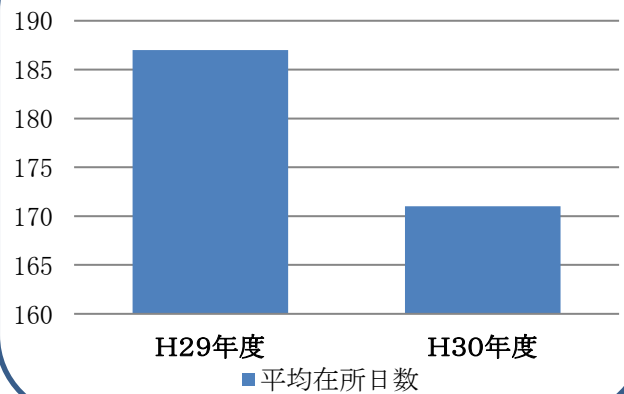
平成30年度実績報告

入所・退所者の延べ人数(SS含む)

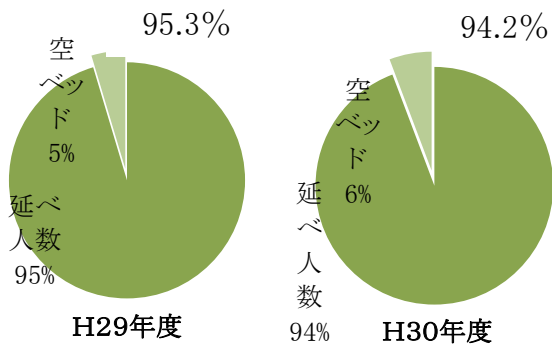
■入所 ■ショート ■退所



平均在所日数



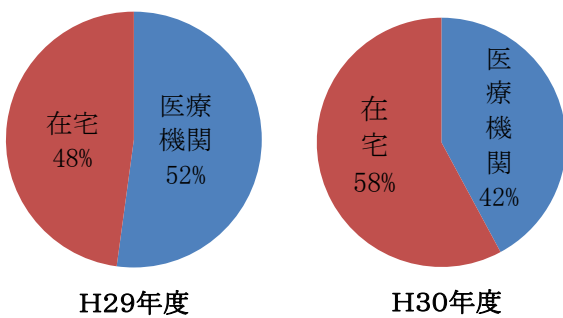
稼働率



平成30年度の実績をご報告させていただきます。入所者190名、ショートステイ205名、退所者186名、合計581名の入退所がありました。利用延べ人数は34,401人。前年度と比較すると、延べ人数が減少しているものの、入退所数は49件増加しており、1人当りの入所日数が短くなっていることが伺えます。そのことは、平均在所日数でも16日短くなっていることから分かります。

相談部は、4月から、2F、3F、ディケアと各フロアに介護支援専門員を配置。よりダイレクトに状態をケアプランに落とし込める体制が出来ました。フロアに各職種が在籍することで、多職種連携が図りやすくなります。これまでも入所時、1週間後、1ヵ月後、2ヵ月後、状態変化時にケアカンファレンスを開催して来ましたがより重症化する入所者に対応できるよう、日々申し送り後等に集まってその日の状態に合わせてケアの内容を確認していきます。

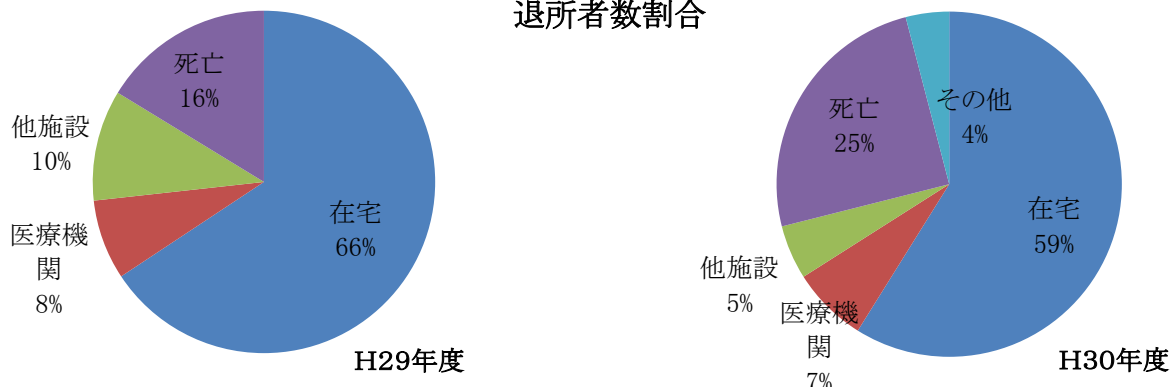
入所者数割合



相談部 白田 悦子



退所者数割合



新年度のごあいさつ



看護部部長 佐藤 幸恵

桜の開花とともに新入職員を迎え、新年度がスタートしました。いちいの杜では、これまでと同様に「超在宅強化型老健」としての役割を続けています。私たち看護部も、他職種との連携を図り、情報を落とすことなく、施設内だけでなく訪問看護としっかりとコミュニケーションを図っていきます。新入職員の新しい風を受け取りつつ、いちいの杜での役割を伝え、まずは看護部内から、そして他職種との連携が図れるよう、毎日の業務に臨みたいと思います。まず看護部内の連携を図るために、部内のコミュニケーションの機会をきちんと取り、決めるべき事柄をシンプルに統一していきます。また、一度決めたこともそのままにしておく和不都合なことや、ルールが陳腐なものになってしまうので、問題がなくても定期的に見直すことが重要です。



介護部部長 原 彰宏

4月になり、不在であった2、3階の主任が決まり、新たにフロア専任のケアマネージャーや副主任を迎え、介護部内の役割も明確になりました。新年号でも書かせて頂いた「情報共有」「チームケア」をしっかりと実施できるよう、新しいリーダーを中心に取り組んで参ります。

フロア専任のケアマネージャーができたことで、相談部との情報共有がより円滑になり、R-4システムのADL、QOL評価の一端を担う介護部の情報を、今まで以上にシェアできる事で、ケアプランの内容もより具体的となり、プランに沿ったケアが実施できるようになることが期待されます。そして、ケアの課題、キュアの課題を全部署が集まるケアカンファレンスで共有し、具体的な対応策を決めることで、エビデンスベースケアが実施できるようになります。前年度の取り組み、反省点を活かし、今年度は上記の取り組みに力を入れ、より質の高いケアができるよう取り組んで参ります。



リハビリテーション部部長 兼 通所リハビリテーションセンター長 徳岡 美鈴

新年度4月から、リハビリテーション部は新体制となりました。各フロアの顔ぶれが変わったのにお気づきでしょうか。私たちも心機一転がんばります。他部署と積極的に話し合い、カンファレンスで情報共有し、ケアプランに則って、利用者様の在宅復帰や在宅生活の継続をめざし、リハビリとしての役割を担っていきます。

各フロアには専従の作業療法士を配置しています。療養棟での生活の中で専門性を生かしながら、他部署と連携していきます。リハビリスタッフも1年目、2年目の新人が半分ですので、しっかり育てていきます。また部署を超えて温かく接し、助言や指導をして人材育成に協力していきます。



栄養部部長 高木 美樹

新年度が、いよいよ本格始動となります。「昨日」と「今日」たった1日しか変わらないのに、何故か清らかな気持ちになれるのが「節目」の不思議な力だな、といつも思います。

昨年度末に嗜好調査を実施し、食事に対して皆さんがどのような印象を持っているのか？生の声を聞くことで、色々と新たな発見や反省することがありました。皆さんの意見をまとめたものを調理員達に目を通してもらい、現状に甘んじず一丸となってよりよい食事を提供していこう！と日々励んでおります。栄養部としては、在宅復帰に向けてリハビリが行えるよう、しっかりと食事が摂れる環境を整えて体力づくりをサポートしていきたい所存です。令和元年を迎える2019年、気持ちも新たに頑張ってみます。

新年度にあたり



事務長 川田 隆広

「タイムロスの少ないクリニック受診と効率的な検体運搬」「クリニックからのデータをスムーズに現場へつなぐ」「日用物品の適正管理と発注手配」「透明性が高く明瞭な労務管理」「スピーディーな営繕」「正確な介護報酬の請求」「清潔で快適な職場環境の整備」等が私達事務部と皆様との現在のつながりであり、今後さらに連携が必要な面だと考えます。

私達は全ての部署と、業務上必ず関係を築くことが必要であり、それがより良い仕事ができるための条件と認識しています。今後も徹底的に「生産性の無いことを撲滅する」「ロスタイムをゼロに近づける」ことに邁進して参ります。対話と礼儀を尽くしながら是非皆様と協働していきたいです。

国家試験合格者

平成30年度の作業療法士、介護福祉士国家試験に以下の職員が合格したことを報告致します。今後のさらなる活躍を願っています。

◇作業療法士

・森田 努

◇介護福祉士

・荒 結美乃 ・土屋 瑞穂 ・中村 新二

新入職員紹介

新たに以下の職員が仲間に加わりました。どうぞよろしくお願いたします。

看護部



加藤 繁代



田中 聖子



小瀬 飛鳥

介護部



加藤 梨紗



原 孝平



石川 悦子



平泉 雄太



医療法人社団弘樹会
介護老人保健施設 いちいの杜

住所 東京都昭島市武蔵野3-5-63
TEL/FAX 042-500-0151/042-500-1533
ホームページ <http://www.kanemitsu-c.or.jp/>
Email ichiinomori@nifty.com